

# 空を見上げて

やまなか つとむ  
山中勉

平成二十三年三月十一日、東日本大震災が起きました。震災はたくさんの方の心につらい思いを残しました。そんな自分たちの心の中を五・七・五の言葉につむぎ、人々に伝えることを決意した中学生がいます。大きな被害があった宮城県みやぎ女川町おながわちょうの中学校に通う生徒たちです。震災から二か月後のことでした。

私は、国際宇宙ステーションの「きぼう」を利用して、子供たちに宇宙への関心をもってもらおう取り組みをしています。女川の中学生たちも、以前からその仲間として活動していました。震災後、女川をおとずれた私の前には、深い悲しみの中にいる中学生たちの姿がありました。しかし、同じ思いをしている周りの大人や友達の中では、その心を表現するためにためらいを感じていたのです。私は、「地球人の一人として、遠い世界や宇宙に向けて、今の心を解き放してみては。」

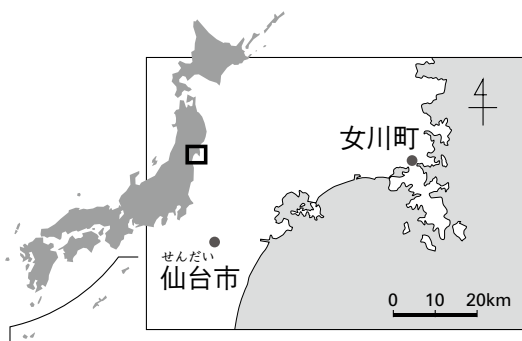
10

5



目標

●言葉にはどのような力があるのかを読み取り、言葉について考えを深める。



- 1 漢震災シン
- 2 漢震災シン
- 3 漢被害ヒ

と呼びかけてみました。すると、中学生たちは、それまで心の中に閉じ込めていた思いを、次々につむぎ出していったのです。

夢だけは 壊せなかった 大震災

逢いたくて でも会えなくて 逢いたくて

みあげれば がれきの上に こいのぼり

戻もどってこい 秋刀魚さんまの背中に のってこい

心がこもった言葉には、人を動かす不思議な力があります。女川の中学生の言

葉は、新聞報道などを通じて、日本の中学生や小学生、高校生、大学生の心を動

かし、連句のように七・七の句が女川の中学生のもとに届けられました。

みあげれば がれきの上に こいのぼり (女川)

未来への川 登り続ける (東京)

いつだって 道のタンポポ 負けてない (女川)

こんなところで くじけるものか (京都)

なくなった また一からの スタートだ (女川)

ともに描こう「希望」のスケッチ (福岡)

そして、女川の中学生たちも、またそこに句を重ねていきました。

弟と 久しぶりの 大ゲンカ (女川)

ケンカするって 幸せなんだ (東京)

初詣はつもち 弟大吉 僕は吉 (女川)

夢だけは 壊せなかった 大震災 (女川)

負けちゃいけない こんなところで (福岡)

みてなさい 数学なんか 負けません (女川)

「みあげれば がれきの上に こいのぼり」という句が、NHKラジオ国際放送の番組で紹介されると、世界中の人々からメッセージが返ってきました。そして、そのメッセージを女川の中学生が訳し、下の句につむぎ直していきました。

みあげれば がれきの上に こいのぼり (女川)

リン！と希望の 鐘かねがなりだす (ロシア)

みあげれば がれきの上に こいのぼり (女川)

その上見れば 希望の光 (バングラデシュ)

(73ページ)

1 東日本大震災 巨大地震とそれにもなう津波によって、東日本の広い範囲に大きな被害をもたらした災害。死者・行方不明者は二万人を超えた。

5 国際宇宙ステーション 日本やアメリカ、ロシアなど世界十五か国が協力して建設された有人実験施設。「きぼう」は、その一部である日本の実験棟。

2 つむぐ意

9 ためらう意

(74ページ)

9 連句 五・七・五の句と七・七の句を、一定の規則に従って交互に続けていく詩の形式。

8 NHKラジオ国際放送 NHK (日本放送協会) が日本語の他十七か国語で、世界のニュースや日本の政治、経済、文化などを海外向けに伝えている放送。  
9 世界中の人々からメッセージが…… 四十九の国や地域から八百件を超えるメッセージが寄せられた。

4 漢 大吉  
12 漢 鐘

みあげれば がれきの上に こいのぼり（女川）  
あきらめないよ 空を泳いだ（パキスタン）

外国には、こいのぼりを揚げるという習慣はないでしょう。「こいのぼり」って何だろうと考えたことでしょう。しかし、女川の中学生の言葉は世界中の人々の心を動かし、こいのぼりは確かに世界中の人の心の中で鮮やかに泳いだのです。震災という困難な状況下でも、日本や外国の人々をつないでいった言葉。そこには、「あきらめないよ空を泳いだ」心が込められているのです。全ての生徒たちの言葉にその心を見つけることができると思います。

女川の中学生と世界中の人々がつむいだ言葉は、ディスクに収録してロケットで打ち上げられ、「きぼう」に保管されました。「きぼう」は、夜空に明るく輝く星として世界中で見ることがができます。寂しいとき、つらいとき、この星を見上げれば、女川町の友人と、世界中の人々が重ねた心を思い出すことができます。そして、「私は一人ではない」ということを感じることもできるでしょう。

「きぼう」は、地球人の心の輝きを放ちながら、今日も地球を周回しています。

10

5 漢鮮やか  
10 漢輝く  
11 漢寂しい



筆者 山中勉 一九五八（昭和三三）—— 東京都出身。

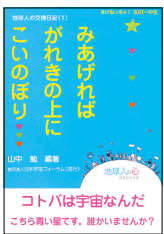
宇宙航空システムエンジニア。

著書 「みあげれば がれきの上に こいのぼり…」 「みらいのわたし」（編著）など。

出典 本書のための書きおろし。

広がる読書

「みあげれば がれきの上に  
こいのぼり…」 山中勉 編著



「希望の地図」 重松清



【新出漢字】

76 鮮 あぎやか	鮮明	73 震 ふるえる	身震い	73 被 こむる	被告	75 吉 キツ	吉事	75 鐘 かね	警鐘
76 輝 かがやく	光輝	76 寂 さびしい	静寂						



目標

●言葉にはどのような力があるのかを読み取り、言葉について考えを深める。

1 確認しよう

この文章では「五・七・五」の句をめぐる四つの出来事が順に語られている。それぞれの内容をまとめてみよう。

2 読みを深めよう

- ① 「みあげれば——」の句に、七・七（下の句）を付けてみよう。
- ② 人の心を動かす言葉とはどのような言葉か、自分の考えを発表しよう。

5